

「日独学生青年リーダー交流事業（阿蘇プログラム）」

- [主 催] 文部科学省
- [実 施] 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立阿蘇青少年交流の家（阿蘇プログラム）
- [期 間] 平成22年9月2日(木)～9月7日(火) 5泊6日
(全日程) 平成22年8月25日(水)～9月8日(水) 15日間
- [会 場] 国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺
熊本大学, 熊本城
- [参加者] 社会人を含む18歳～26歳のドイツ学生青年リーダー16名, 団長1名
本部職員2名, 通訳1名
- [協力者] ホストファミリー16件, 阿蘇高等学校・阿蘇中央高等学校茶道部
阿蘇清峰高等学校, 阿蘇市, 鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部
ディスカバリーくまもとボランティアの会, 熊本大学メイクフレンズ
熊本ものづくり塾, 熊本大学
- [講 師] 阿蘇グリーンストック 環境教育担当 永原 彰子 氏

1 趣 旨

日本とドイツの青少年団体等でリーダーとして活動する学生・青年等が、文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図る。

2 目 標

- (1) 青年リーダーとしての資質を高める。
- (2) 日本とドイツの相互理解と交流の発展を図る。



来民団扇作りの様子



茶道部の皆さんと記念写真

3 事業展開

(1) 研修プログラム

	9 / 2 (木)	9 / 3 (金)	9 / 4 (土)	9 / 5 (日)	9 / 6 (月)	9 / 7 (火)	
6:30		起床			起床		
7:00		6:50~7:05 クリーンタイム 7:15~7:30 朝のつどい			6:50~7:05 クリーンタイム 7:15~7:30 朝のつどい		
8:00		朝食		ホームステイプログラム	朝食		
		身支度			身支度 部屋点検 8:15		
9:00		移動			熊本市内へ移動 8:30発	ホテルチェックアウト	
10:00	羽田発 9:05	火口見学	ホームステイプログラム		熊本城見学	評価会 (チサンホテル)	
11:00	移動	阿蘇グリーンストック (阿蘇の環境保護)との 意見交換			移動	身支度・着替え	
	空港着 11:25					空港へ移動	
12:00	空港着 11:25	弁当昼食				ものづくり (熊本ものづくり塾へ 協力依頼)	昼食 自由行動
	移動	移動					13:30 熊本空港発
13:00	昼食 (阿蘇の四季)	茶道体験 (阿蘇中央高校)				13:30 交流の家集合	大阪市内へ
14:00	14:00 交流の到着	移動・休憩				ドイツ団ミーティング	
15:00	施設案内 事業紹介 意見交換	阿蘇中央高校(地域への ボランティア活動)との 交流プログラム			熊本大学 メイクフレンズとの 交流プログラム		
16:00	移動	交流の家移動			自由行動(熊本大学)		
	阿蘇市表敬訪問 16:00~16:30	自由時間 (伊辺の間) (談話棟)			移動		
17:00	水基めぐり 16:40~17:20	H Fとの対面式		移動			
18:00	移動・休憩			ホストファミリー交流会 (いこいの村)	夕食		
19:00	歓迎夕食会	ホームステイプログラム		自由行動	ドイツ団ミーティング (評価会準備)		
20:00	入浴 休憩						
21:00	ドイツ団ミーティング (会場:伊辺の間)						
22:00	宿泊 阿蘇青少年交流の家						
				宿泊 阿蘇青少年交流の家	宿泊 熊本チサンホテル		

(2) 目標達成のための手立て

① 日本学生との交流

- ア 本施設の教育実習生を随時同行させ、常に質問したり、意見を交流したりすることができるようにした。
- イ 地元地域の高校生と交流する場面として、高校生の茶道部が指導する茶道体験や郷土伝承部による山鹿灯籠演技の見学をプログラムに取り入れたり、大学生とともに団扇を作る場面を取り入れたりしながら、日本の伝統文化をとおした学生同士の交流ができるようにした。
- ウ 熊本大学と連携し、大学のボランティアサークルと協議したり、交流したりする場面を作った。

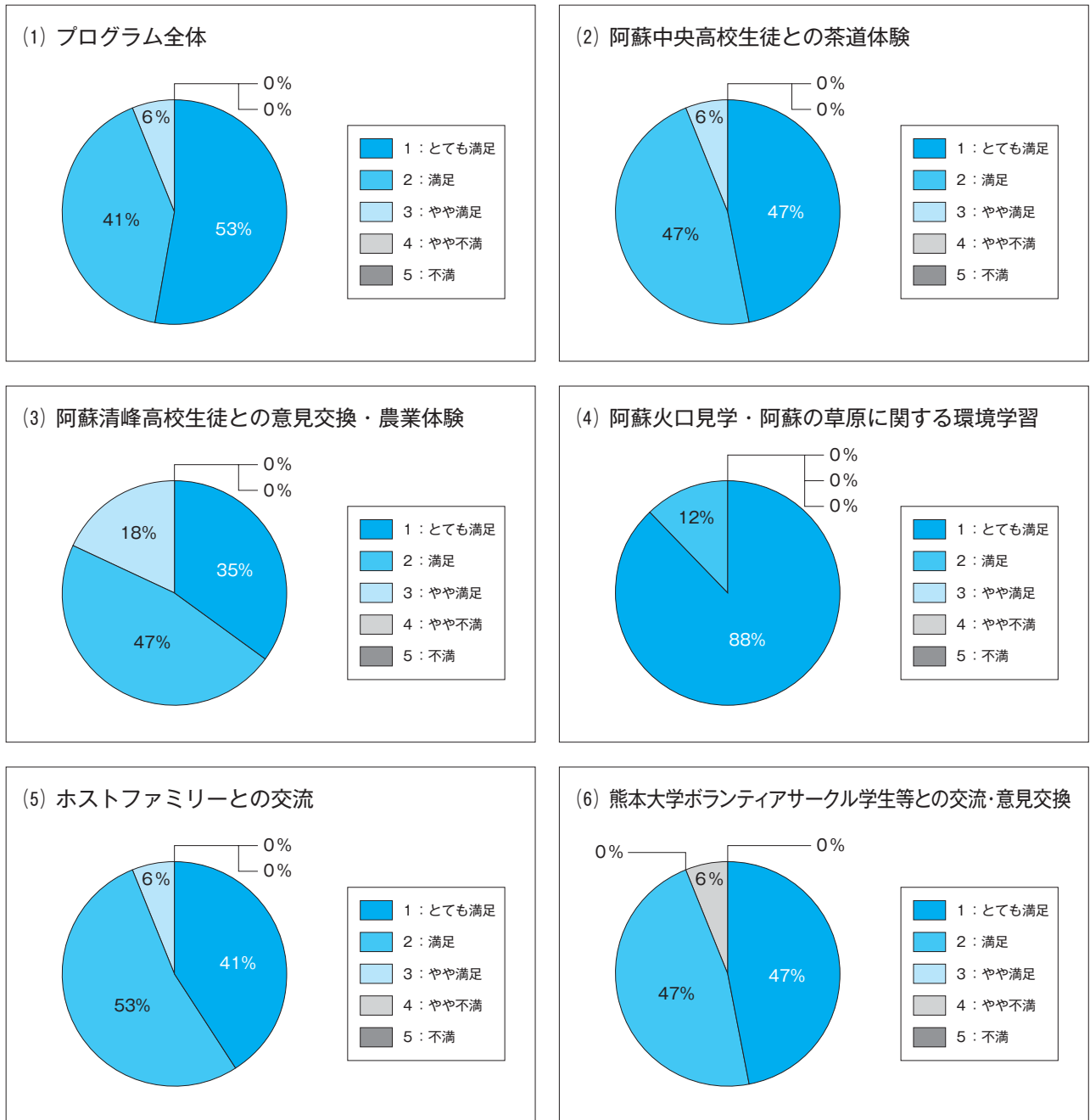


② 阿蘇の特性を生かした場の工夫

- ア 阿蘇の特徴である阿蘇中岳火口見学を取り入れるとともに、その後環境を守る取り組みの講義を草原が広がる現地で行った。
- イ 阿蘇独特の文化や暮らしが体験できるように、ホームステイは阿蘇市内で行った。

4 結果

参加者のアンケート結果は以下の通りである。



【参加者の声】

- 火山には感銘を受け、保護活動、また火山の環境への影響は興味深かった。野が再び茂るための野焼きもドイツにはないことなので興味深く思った。
- 茶が飲み物以上のものであることを学びました。それは、文化です。茶室では全ての人々が平等で、それゆえとりわけオープンで真面目な会話がなされていた。
- どれだけの愛と心遣いによって動植物が育てられているのかを知るのには素晴らしい。共同で行った花植えはとても楽しかった。



- ホストファミリーでの経験と交流は「本物の」日本を家庭の日常生活のうちで知ることができるとても良い機会でした。とても楽しく、またとない経験。
- ホストファミリーは素晴らしく、優しく自分の世話をしてくれた。私もホストファミリーも言葉の壁を破ろうとした。他では全く得られない家族と日本社会に関する比べようのない経験を集めることができた。ホストファミリーの皆様にとっても感謝しています。
- 学生が子どもの自立のために努力しているのは素晴らしいと思いました。学生たちは、活動をとoshite職業訓練を受けられるということも学んだ。

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 高校生との茶道や舞踊など文化体験や農業体験を通じた交流や熊本大学の学生とのボランティアに関する意見交換などとおした交流ができたことは、日本の高校生や学生たちにとっても貴重な体験となっている。
- ② 地元の阿蘇市内でホストファミリーを募集したことで、施設と地域とのつながりをより強化することができた。
- ③ 交流の場面では、通訳の人数を増やし、なるべく個と個の交流ができるようにしたことで、お互いの理解がより深まった。



学生との意見交換の様子

(2) 課題

- ① 阿蘇プログラム(地方プログラム)は、全日程の後半部分であり、参加者にはかなり疲れがたまっている頃であるので、プログラムにはゆとりを持たせることと、自主研修の時間をきちんと確保することが必要であると感じた。
- ② 言葉の壁は大きいと感じた。できるだけ言葉の壁が小さくなるように、随行するスタッフ、ホストファミリーや交流する学生などは、英語を話せる方がよいと感じた。